

## 平成23年度 第1回歯学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日 時 平成23年5月16日(月) 16:00~18:00

場 所 公益社団法人私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者 神原委員長、斉藤委員、佐藤委員、花田委員、奥村アドバイザー、  
藤井アドバイザー、森實アドバイザー

(事務局 井端、森下、平田)

### III. 議事概要

#### 1. 資料確認と説明

まず、資料：①「学士力(コアカリ)の実現を目指す ICT 活用(授業の開発モデルの例示(メモ))」、②.1「eラーニング学習コース(森實先生)」、②.2「学士力(コアカリ)の実現を目指す ICT 活用授業の開発モデル「歯科疾患予防を考える(齶蝕予防を中心に)(神原先生)」、③「Competency of New Japanese Dentistry の作成」、参考：「日経新聞社説メモ」、「歯学教育モデル・コア・カリキュラム(平成22年度版)」、その他：「平成23年度委員会名簿」、「私立大学情報教育協会平成23年度事業計画」について資料確認を行った。

冒頭、私立大学情報教育協会は4月1日より、社団法人から公益社団法人に変わったことの説明があり、本委員会は公益目的事業の公益1「私立大学における情報通信技術活用による教育改善の調査及び研究、公表・促進」の(1)「情報通信技術による教育改善の研究」事業の一環として他の学系別 FD/ICT 活用研究委員会とともにコアカリを踏まえて教育改善モデルの研究を進めていくこと、教育改善モデルについては遅れてはいるが平成24年度に冊子公表予定なので、4月~5月中旬まとめ、5~6月初旬にかけて歯学関係者にアンケート、6月中旬まとめ方針検討、8月を目途にまとめ完成の予定であることが報告された。

資料説明とともに、新聞社説などでも「未来を切り開く力」に着目すべきとされており、現在検討している教育改善モデルもこの視点を踏まえ、5年先、10年先を見据えた ICT を使った理想的な授業デザイン、教育デザインの検討が必要であることが説明された。また「未来を切り開く力」に関連して、ケンブリッジなど欧米では専門が異なる領域の人々が日々議論をしながら学んでいて学びの伝統(真理の探究)が感じられるので、日本でも学部の壁、科目の壁を越えて学び合える環境が望まれること、欧米の大学で行われている学びを繰り返すスパイラルな学び(spiral of learning)が日本でも必要なこと、日本では上の人に異なる意見をいいにくい文化があるが、学び合いに必要な「議論する」という土壌が日本での望まれることなどの意見が出された。

## 2. 検討事項

### 1) Competency of New Japanese Dentistry の作成について

H22 年版コアカリとの対比検討が残っているが、完成形ではなく今後も逐次修正を加えて行くことを明記して5月の理事会で報告することが了承された。なお、ICT との関わりについて5月19日までに概要説明に加筆することで了承された。

### 2) 授業デザイン例の検討

「e ラーニング学習コース」については、e ラーニングそのものを理解するための学生向け学習コースとして例示されたが、事務局から、学生向けではなく教員向けの授業モデルとし、表題は例えば「自学自習を促進するための授業デザイン例」など具体的な授業科目を学ぶ中での ICT の活用法を例示するよう検討してほしいとの要望がなされた。特に5年先の理想的な e ラーニングを活用した学びの方向性を打ち出してもらい、その中に振り返り学習や *spiral of learning* のプラットフォームとしての e ラーニングの活用例（デザイン）を例示することはできないかとの要望がなされ、事務局としては、今回は、ICT を前面に出すのではなく、授業をどうデザインするか、どのように学びを定着させるかのデザインを示し、その中で ICT をどう使うかを示し、学生をその気にさせて、学生がバネのある力を持って卒業していけるためには大学、教員がどのような環境を作っていたらよいかを提案したいとのことであった。

これらを踏まえ、神原委員長と森實先生の案をさらに検討することとなった。

## 3. 次回までの予定

・「Competency of New Japanese Dentistry の作成」については、5月19日までに神原委員長が事務局に加筆修正した原稿を送付する予定となった。

・「授業デザイン例」については、6月4日頃までに神原委員長と森實先生の案をネット上に掲載してもらい、各自検討した上で6月13日（19時～21時）の委員会で検討を行う予定となった。